

1 PLAN(目的・概要)

一般事務事業

建設整備事業

事務事業の段階

計画 事業化 事業 管理

個23事17

政策名	5 安全な港	23年度事業・個別施策評価結果 (今後の取り組みの方向性)			責任者	建設部 施設事務所長
基本施策名	08 施設の安全性・信頼性の向上	事務事業	成果	コスト	連絡先	052-661-5282
個別施策名	23 港湾施設の機能を維持・強化する				連携課	施設工事担当
事務事業名	17 中川口・松重におけるポンプ施設・通船門等の管理				事業期間	昭和26年度～継続
目的	ポンプ施設・通船門等を適正に管理し、災害に備え常に異常なく稼働します。				根拠法令等	港湾施設条例施行規則
概要	中川口ポンプ施設・通船門等について保守点検を行い、不良箇所を発見した場合は緊急度に応じた補修を実施します。				実施義務	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
24年度の実施予定	異常が確認され、または老朽化した設備については、自らまたは外部委託にて補修を行い、防災時に異常なく稼働するように対応します。				関連シート	

2 DO(実施)

24年度に実施した内容・結果	中川口ポンプ施設・通船門等について直営及び委託による試運転、点検修理及び委託による定期点検、計画的な維持修繕を実施し、防災時に異常なく稼働しました。						
コスト(年度)	単位	20(実績)	21(実績)	22(実績)	23(実績)	24(予算)	備考(款項目節等)
事業費 計	千円					144,429	(款項目節) 歳出: 建設費/整備費/海岸防災費/単費(海岸防災施設維持補修費)
一般会計	千円					144,429	建設費/整備費/施設補修費/単費(臨港交通施設等)
事業会計	千円						(算出計算式)
その他	千円						事業費:関連する委託及び工事費の合計 人員費:業務に対する割合 (その他) 24年度よりシートを作成
人員費 計	千円					51,860	
正規職員	人					5.95	
嘱託職員	人					0.00	
合計	千円					196,289	

3 CHECK(検証)

活動・成果 指標	年度	20	21	22	23	24	中間目標	24	備考(指標の算定方法など)
施設の年間試運転の回数(回)	目標					132		—	稼働施設(ポンプ、通船門)の年間総試運転回数を指標とします。
	実績					132			
	達成率(単年度%)					100.0			
	達成率(累計%)					—			
防災時の施設の故障発生件数(件)	目標					0		0	稼働施設の防災時の故障発生件数(年間)を指標とします。
	実績					0			
	達成率(単年度%)					0			
	達成率(累計%)					—			
必要性・有効性・効率性の確認		判断理由 (課題の抽出)						その他特記事項	
必要性	どうしても必要な事業か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □						港湾管理者として、災害発生時に被害が生じることを防ぐため。	
	利用者のニーズは高いか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
	本組合が関与する必要があるか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
有効性	目的や目標の水準は妥当か?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □						災害に備え、港湾施設としての機能維持が出来る見込みがあるため。	
	目標を達成したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
	個別施策へ貢献したか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
効率性	最小のコストで成果をあげているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □						公共の財産を守る必要があり、本組合が運営主体となって、通常の維持修繕のみで問題なく稼働できる見込みがあるため。	
	受益者に適正に負担させているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							
	効率的な運営主体となっているか?	<input checked="" type="checkbox"/> ○ × □							

4 ACTION(取組)

個別施策評価結果による今後の取り組みの方向性	事務事業	成果	コスト	判断理由
	継続			現行レベルの保守点検を行うとともに、計画的に維持修繕工事を行うため。
個別施策評価結果を踏まえた来年度以降の取り組み				
現行と同水準の保守点検を継続し、適正で効率的な維持管理を図っていきます。				